科目ナンバリング	U-LAS03 10001 SB48				
授業科目名<英訳>	外国文献研究（全・英）-E1 ：英語で学ぶ日本映画史 Readings in Humanities and Social Sciences (All Faculties, English)-E1 :An Introduction to Japanese Film History - Global Perspectives		担当者所属職名・氏名	人間・環境学研究科 教授	木下　千花
群	人文・社会科学科目群	分野(分類)	外国文献研究	使用言語	日本語
旧群	C群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ
授業形態	演習（対面授業科目）				
開講年度・開講期	2026・前期	曜時限	金2	配当学年	２回生以上
対象学生	全学向				

[授業の概要・目的]

日本映画は世界映画史のなかに重要な位置を占めるばかりではなく、著名な作品や監督は、英語によるコミュニケーションのなかで前提とされるグローバルな教養の一部として定着している。例えば、黒澤明監督の『羅生門』（1950年）に由来するRashomonという語は、「ある事件・事象についての相互に矛盾する見方や説明」という意味で使われ、Oxford English Dictionaryにも載っている。本授業では、日本映画史を英語文献を通して学ぶことで、日本映画史について基本知識を得るとともに、日本の映画と文化についてのグローバルな視座を理解し、ある程度、英語で発信できるようになることを目指す。巨匠の代表作から知る人ぞ知るプログラム・ピクチャーまで、参考上映やクリップを通して作品に触れ、映画の美学・技法について学ぶ。映画の産業としての側面、国家による統制や検閲との関係、映画館での興行形態やマーケティングなどにも着目し、ナショナリズム、植民地主義、ジェンダー、メディアミックスなどの問題と映画作品との関係について、英語での議論を参照して考える。

[到達目標]

・映画技法・美学の日本映画史における展開を理解するとともに、最低限知っていなければならない固有名、作品名、歴史的背景についての知識を日本語・英語で習得する。
・グローバルな映画研究の基礎的な方法論や問題意識に触れる。
・日本の映像文化について、ある程度、英語で説明できるようになる。

[授業計画と内容]

第１回　イントロダクション
第２回　サイレント映画の発展と弁士
第３回　トーキー化と日本映画の第一期黄金時代・1930年代
第４回　日本映画と第二次世界大戦
第５回　占領から第二の黄金時代・1950年代へ
第６回　映画鑑賞（英語字幕付）
第７回　映画分析
第８回　日本映画の新しい波
第９回　1960年代：ジャンルと前衛
第１０回　1970年代：撮影所システムの終焉
第１１回　1980年代：メディアミックスの興隆
第１２回　映画鑑賞（英語字幕付）
第１３回　映画分析
第１４回　現代映画への視座
第１５回　まとめ

外国文献研究（全・英）-E1 ：英語で学ぶ日本映画史(2)へ続く↓↓↓

外国文献研究（全・英）-E1 ：英語で学ぶ日本映画史(2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

5回以上欠席した者は単位認定の対象としない。
映画コメント（40%）、期末課題（40%）、授業への積極的な参加（20%）
期末論文については到達目標の達成度に基づいて採点する。映画コメントでは画面・音響や語り、物語の構造など形式面に対する気づきと独自性・新規性を評価する。

[教科書]

必読のテクストおよび資料はPDFファイルで配布する。

[参考書等]

（参考書）
四方田犬彦 『日本映画史110年』（集英社新書）ISBN:978-4087207521

[授業外学修（予習・復習）等]

講読資料配付および情報伝達のためLMS（e-learning）を活用する。履修者は授業開始前から計画してテクストを読み、予習をしたうえで議論に積極的に参加することを前提とする。また、授業時間以外でも映画を鑑賞することが望ましい。

[その他（オフィスアワー等）]

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

[主要授業科目（学部・学科名）]